

2005年出土の木簡



(津幡)

石川・加茂遺跡 (1)

所在地 石川県河北郡津幡町加茂

調査期間 2005年(平成17)五月一~二月

発掘機関 (財)石川県埋蔵文化財センター

調査担当者 岩瀬由美・和田龍介

遺跡の種類 官衙跡

遺跡の年代 古墳時代後期、奈良時代、平安時代

遺跡及び木簡出土遺構の概要

加茂遺跡は縄文時代から中世にかけての複合遺跡で、河北潟東岸の谷の出口部に立地する。これまでの国道八号線(津幡北バイパス)改築に伴う発掘調査では、

古代北陸道と付属する建物群が検出され、遺物では「加賀郡榜示札」を含む七

点の木簡をはじめ大量の墨書き土器などが出土しており、「賀茂」「千」などの墨書き土器も出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「□□家郷品治部□□良英太若岡磨『磨』」

343×40×8 011

北陸道深見駅家関連遺跡として注目された。また、近年、津幡町教育委員会によ

り、北接する加茂廃寺跡の発掘調査が行なわれ、礎石建物・鬼瓦などの古代寺院関連の遺構・遺物が確認された。

今回の調査は河北綾断道路建設に伴うもので、調査地は榜示札が出土した地点より約100mほど北で、加茂遺跡のほぼ北端にあたる。検出遺構には、掘立柱建物・旧河道などがある。

掘立柱建物は一部調査区外に延びるため全容は不明であるが、三棟を検出した。九世紀後半から一二世紀にかけてのものと考えられる。掘立柱建物を含め古代の主要な遺構は旧河道より北側で検出されており、河道が区画溝的な性格をもっていたことが窺える。

旧河道SDO-1は調査地のほぼ中央を東西に流れ、合流・分流を経ながら河北潟まで流れていたことが予想される。古墳時代後期から一八世紀までの遺物を含み、一八世紀以降には埋没して道路に転用された。

木簡はSDO-1から一点が出土した。ほかに時期は若干異なるが、「賀茂」「千」などの墨書き土器も出土している。

(1) 「□□家郷品治部□□良英太若岡磨『磨』」
343×40×8 011
板目材を用い、上端がわずかに損傷するがほぼ完形である。下端はキリオリ痕跡が確認される。書き出しは文字数が確定できないが、

加茂遺跡周辺で「×家郷」と表記される可能性をもつのは加賀郡内の井家郷及び駅家郷であり、どちらであるかは決しがたい。木簡の時期については整理中でもあり不詳だが、平安時代に属するものと推定される。

なお、釈読にあたっては、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

(和田龍介)



石川・加茂遺跡 (2)^{かも}

1 所在地 石川県河北郡津幡町字加茂・舟橋

2 調査期間 第五次調査 二〇〇五年(平17)六月~九月

3 発掘機関 津幡町教育委員会

4 調査担当者 中嶋徹郎・戸谷邦隆

5 遺跡の種類 官衙跡

6 遺跡の年代 平安時代前期(主に九世紀)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

加茂遺跡は、河北潟東岸の丘陵裾部に位置する縄文時代後期から古代にかけての複合遺跡である。主体は平安時代前期で、「和名抄」に見える「英多郷」に含まれる地域と考えられる。



(財)石川県埋蔵文化財センターの調査により、一九九四年には古代北陸道とみられる道路遺構が、また二〇〇〇年にはいわゆる「加賀郡勝示札」が出土したのを受け、津幡町教育委員会が